

「みえライフィノベーション総合特区」MieLIP 鈴鹿関連研究会

鈴鹿病態薬学研究会 第4回研究会

平成 25 年 11 月 22 日 鈴鹿医療科学大学薬学部（白子キャンパス）



演題 増殖因子 FGF ファミリーの機能・分子機構の解析と応用

講師 今村 亨

産業技術総合研究所

バイオメディカル研究部門・シグナル分子研究グループ長

今回の研究会における今村 亨先生の講演の概要を以下に記します。

線維芽細胞増殖因子（Fibroblast Growth Factor: FGF）ファミリーは、22 分子存在しており、その作用は多岐に及んでいる。これまで今村先生たちは、この分子群を 1 つ 1 つ詳細かつ明快に解析されてきた。今回は、FGF 研究の歴史流れとともに、下記の 3 つに絞って紹介された。

- 1) FGF18 による皮膚付属器官として毛を作り出す小器官である毛包の制御
- 2) FGF19、FGF21、FGF23 のホルモンとしての作用メカニズム、特に、これら分子が、標的細胞に認識される際の、受容体、補助受容体と補助因子について（近傍に情報を送る増殖因子が、遠く離れた受容体へどのように信号を送るかの精巧なメカニズムについて）
- 3) 放射線防護剤としてのキメラ FGF について

これらの話は、生物の持つ精巧な機能とその発現機序に関する基礎研究に止まらず、養毛・育毛剤の開発（1）、糖尿病の診断と治療への応用（2）、放射線防護剤としての WHO のストックリスト掲載への試み（3）など、基礎研究の成果を産学共同研究へ展開し実用化を図ろうとする取り組みであり、「「みえライフィノベーション総合特区」MieLIP 鈴鹿関連研究会」に相応しい内容の講演であった。聴講した 25 名を超える参加者からも、数多くの質問があり、非常に充実した研究会であった。

講演会場の風景（1303 号室）

